

お客さまに信頼と利便性、
高い満足度を提供する魅力のある、
活力あふれる銀行を目指して

Contents

ごあいさつ／第17次中期経営計画	3
業績推移（単体情報）	5
地域活性化へ向けて	9
将来を見据えて	15
地域社会のために	19
株主の皆さまへ	21
店舗・本部地図	22

当行のプロフィール

名 称／株式会社京葉銀行
英文名称／The Keiyo Bank, Ltd.
設 立／1943年3月31日
資 本 金／497億円
本 店／千葉市中央区富士見1丁目11番11号
千葉みなと本部／千葉市中央区千葉港5番45号
拠 点 数／283カ所
本支店：119 出張所：2
店舗外ATMコーナー：162

従 業 員／2,148名
総 資 産／4兆7,530億円
預 金／4兆3,876億円
貸 出 金／3兆3,517億円
自己資本比率／単体 11.21%
(国内基準) 連結 11.24%
格 付／A- (S&Pグローバル・レーティング)
A+ (株式会社日本格付研究所)
(2017年9月30日現在)



平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
このたび、「2017京葉銀行中間レポート」を作成いたしましたので、ご案内申し上げます。ご高覧のうえ当行に対するご理解を深めていただければ幸いです。

日本経済は、輸出・生産面で持ち直しの動きがみられるほか、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費も底堅く推移しています。また、当行の経営基盤である千葉県経済も、雇用情勢は堅調に推移しており、企業倒産件数についても低い水準で抑えられているなど、緩やかな回復基調が続きました。

一方、低金利環境や少子高齢化、またテクノロジーの進化など、金融機関を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような環境下で、当行は第17次中期経営計画「α ACTION PLAN 2018」の最終年度を迎えています。副題として掲げた『変革と実行』のもと、3つの経営課題に取り組むことで、社会の変化に着実に対応し、当行の持続的な成長の実現に向けて、グループ一丸となって努力を続けてまいります。

地域活性化への積極的な貢献

当行は、創業以来、「地域への貢献」、「堅実な経営」という理念のもと、「お客さま目線」での業務運営を第一に、今日まで地域とともに歩んでまいりました。

これからも、地域のお客さまに寄り添い、地元千葉県とともにさらなる成長、発展を遂げていくために、法人のお客さまには、引き続き経営者との対話を通じて信頼を構築し、課題を共有することで、お客さまの企業価値向上へとつながるよう、最適なソリューションを提供してまいります。また、個人のお客さまには、フィデューシャリー・デューティー（顧客本位の業務運営）の精神に則り、今年6月に策定した「お客さま本位の業務運営に関する取組方針」を、行内でも周知徹底することで、多様化するニーズに応え、お客さまの安定的な資産形成の実現に向けて、より質の高いコンサルティングを提供してまいります。

将来を見据えた経営基盤の構築

当行は、取り巻く環境の変化に、しっかりと対応し、将来を見据えて経営基盤を構築してまいります。
少子高齢化が進むなか、資産形成や相続、事業承継等のさまざまなニーズに応じて、お客さまにとって真に利益となるサービスや商品の提供に努めてまいります。

また、IT化の急速な進展にも的確に対応するため、お客さまが、いつでも、どこでも、便利で安心、快適なサービスをご利用できる「オムニチャネル化」に向け、対面チャネルでは、ITを活用した「次世代型店舗」の取り組みにより、来店時の手続き負担を軽減し、お客さまとの接点を拡大することで、より質の高いコンサルティングの提供に努めてまいります。非対面チャネルでは、アプリの活用や、ネット証券等の他業種との提携等、お客さまの利便性と満足度を高めるため、より一層の充実を図ってまいります。

さらに、今後、生産年齢人口の減少が見込まれるなか、働きやすく、かつ職員が自ら学び、成長していけるよう、「人財」の育成や「働き方改革」を進めることで、生産性向上に取り組んでまいります。

経営管理態勢の高度化

当行がお客さまの信頼に応え続けていくためにも、法令および企業倫理の遵守を徹底するべく、コンプライアンスに対する意識啓発に努め、経営を取り巻く各種のリスクに適切に対処してまいります。また、CSR（企業の社会的責任）を意識した経営の実践により、持続的な成長とともに、中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

こうした取り組みを通じて、全てのステークホルダーの皆さまのご期待にお応えできるよう、京葉銀行グループの役職員一同全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年12月

第17次中期経営計画 期 間 3年間(2015年度～2017年度)

α ACTION PLAN 2018 ～持続的成長へ向けた「変革と実行」～

目指す
銀行像

お客さまに信頼と利便性、
高い満足度を提供する魅力のある、活力あふれる銀行

3つの
経営課題

- 1 地域活性化への積極的な貢献
- 2 将来を見据えた経営基盤の構築
- 3 経営管理態勢の高度化

計数目標

当期純利益	自己資本比率	OHR	預金残高	貸出金残高
140億円	12%程度	65%程度	4.4兆円程度	3.4兆円程度

2018年3月期

※当期純利益、OHRについては2016年5月11日に目標の見直しを行っています。